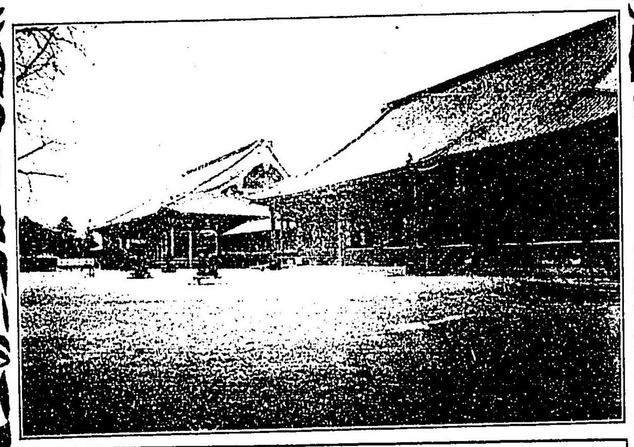
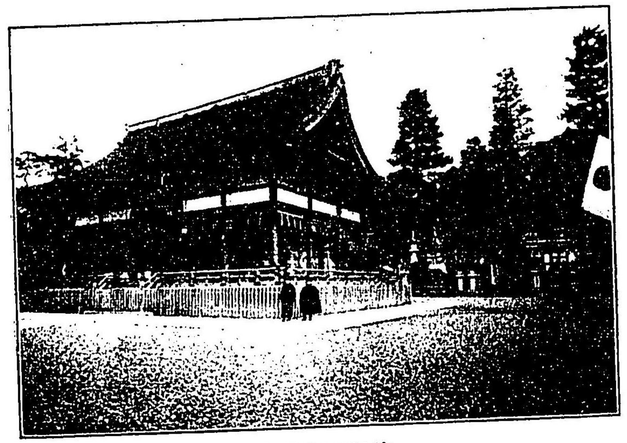
特26
905

本願寺開山親鸞聖人像

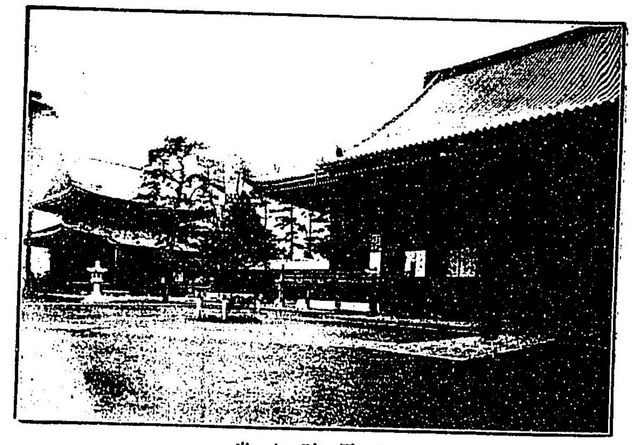


西本願寺

東本願寺

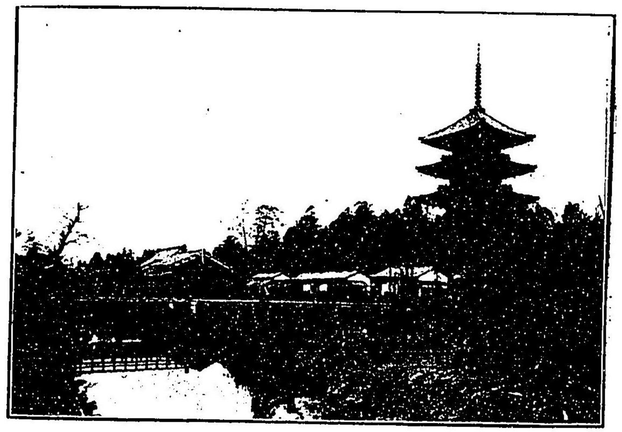


伏見稻荷神社

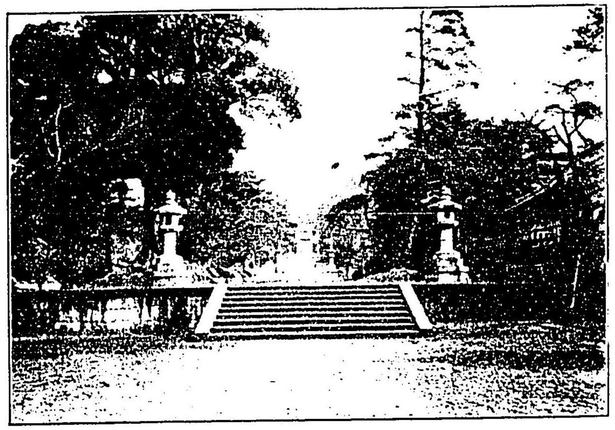


知恩院本堂

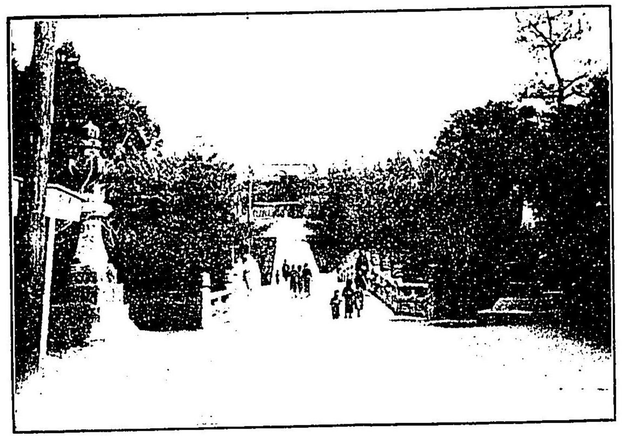
東福寺通天橋



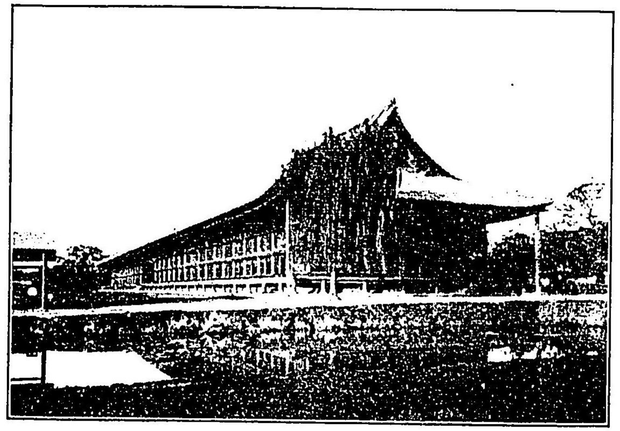
東寺



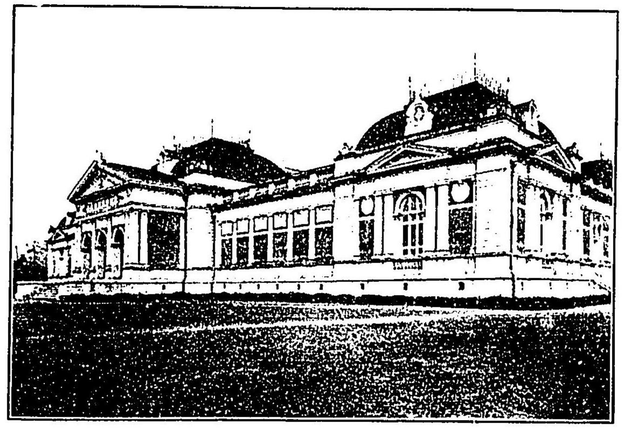
豐國廟



西大谷

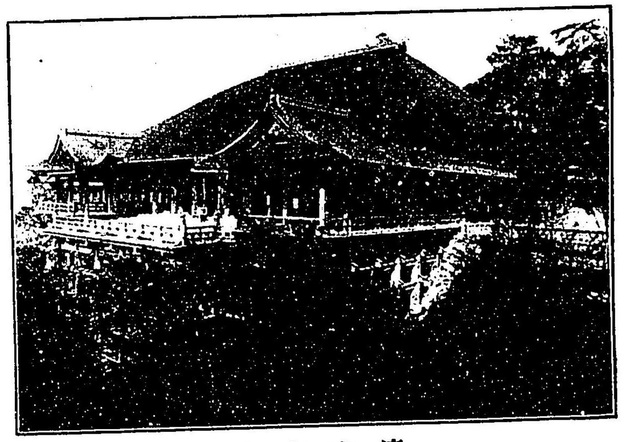


三十三間堂

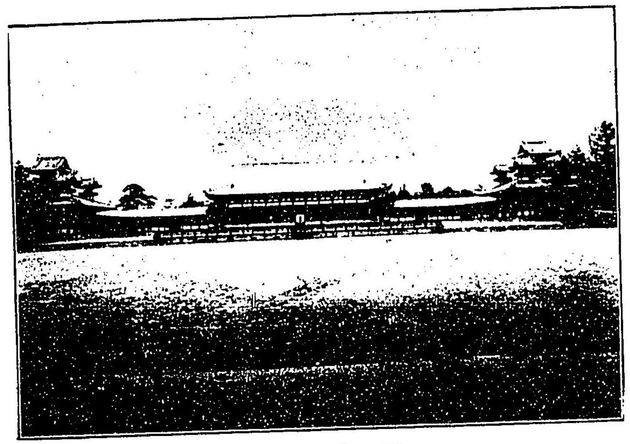


京都帝室博物館

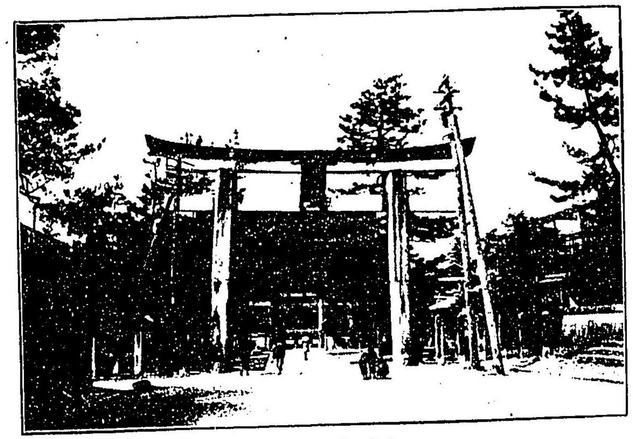
櫻夜山圓



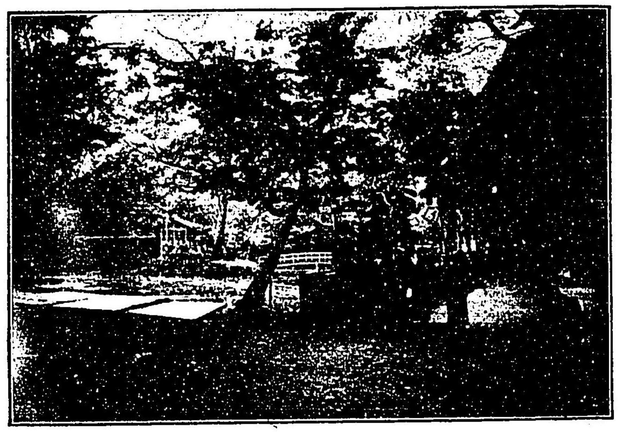
清水本堂



平安神宮

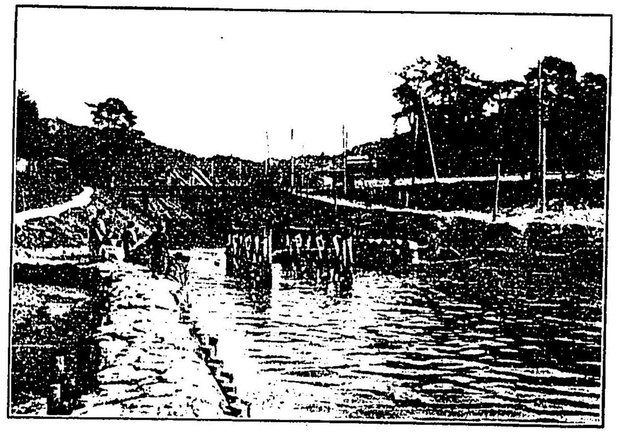


八坂神社表門

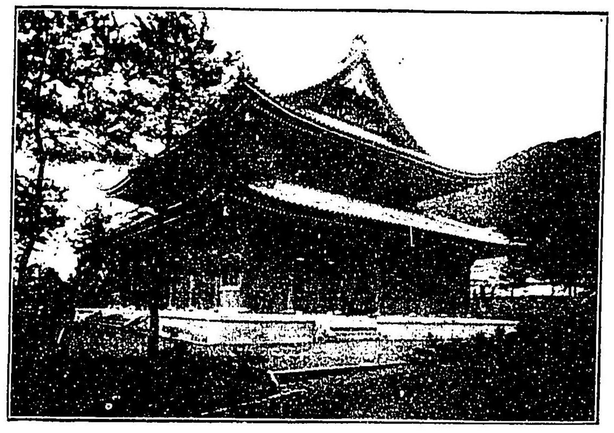


永觀堂

銀閣寺



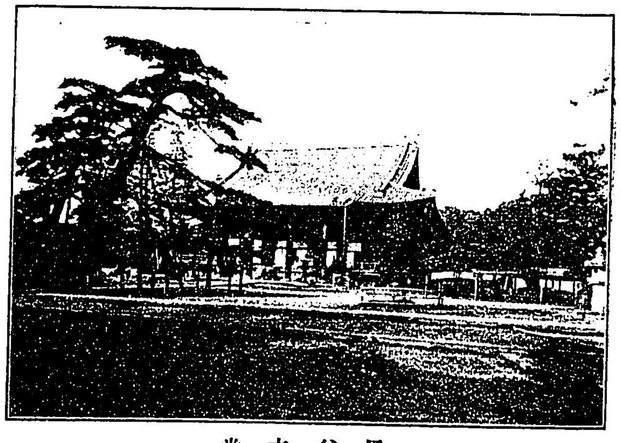
ソイラクソイ



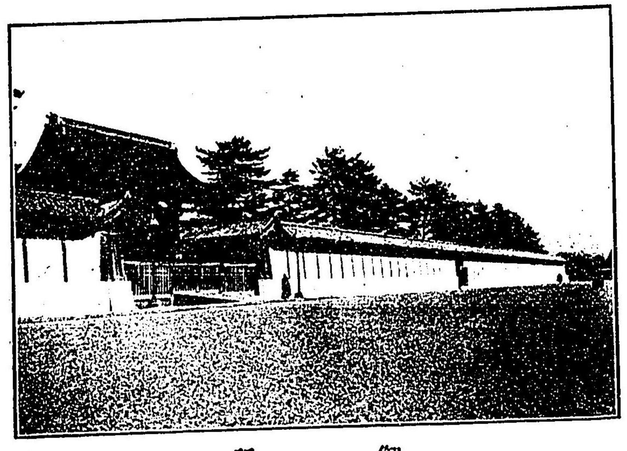
南禪寺

吉田神社

下加茂神社

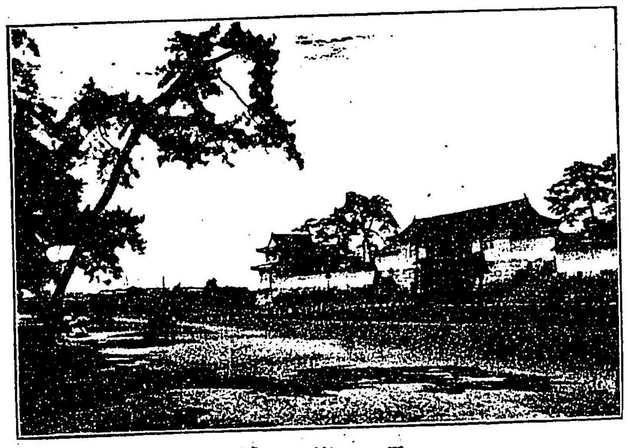


黒谷本堂



御所

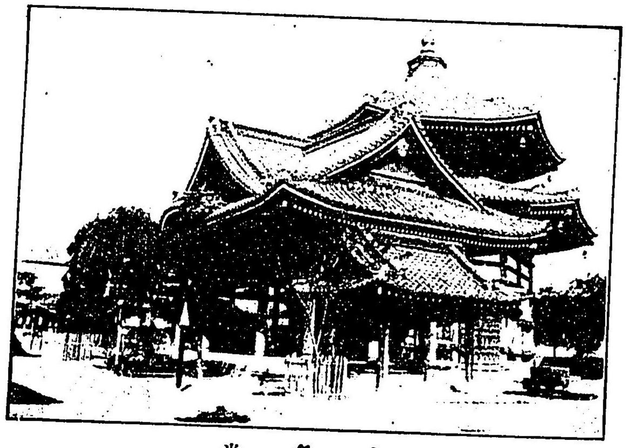
御室仁和寺



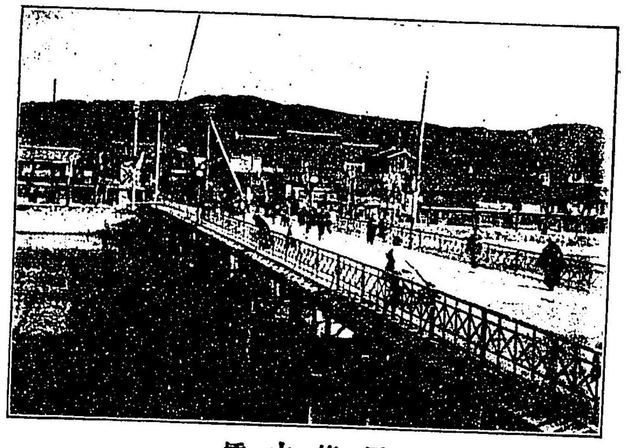
二條城

北野神社

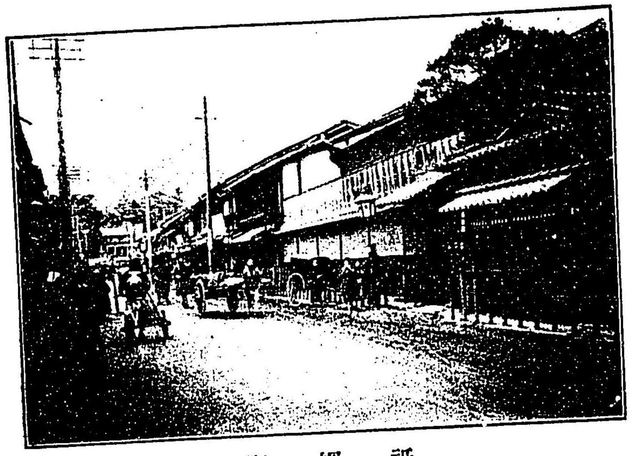
金閣寺



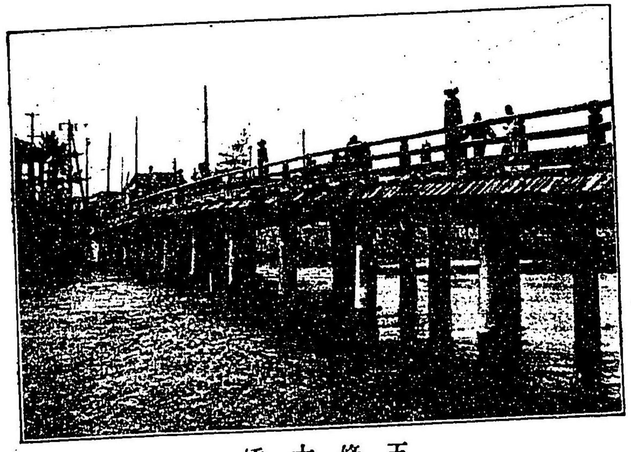
六角堂



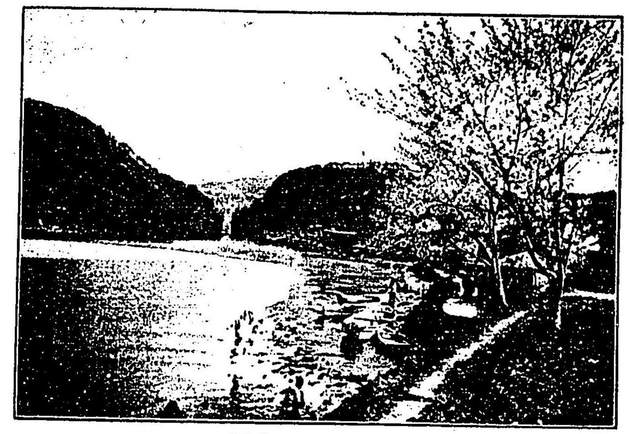
四條大橋



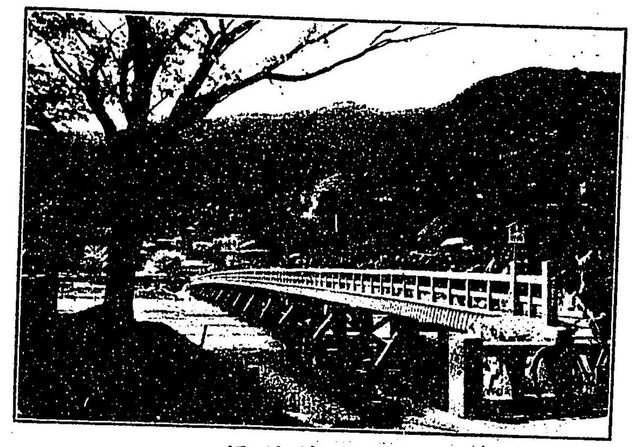
祇園町



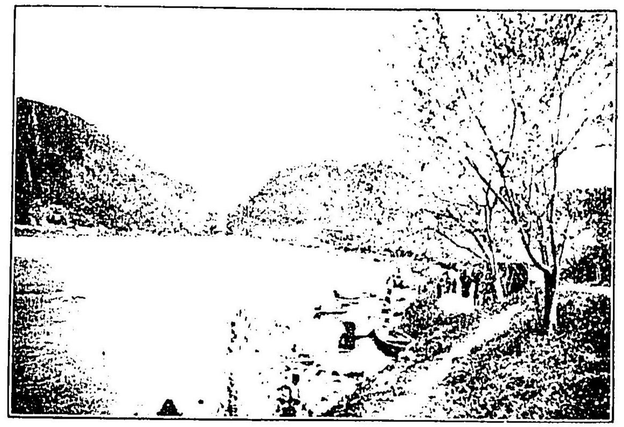
五條大橋



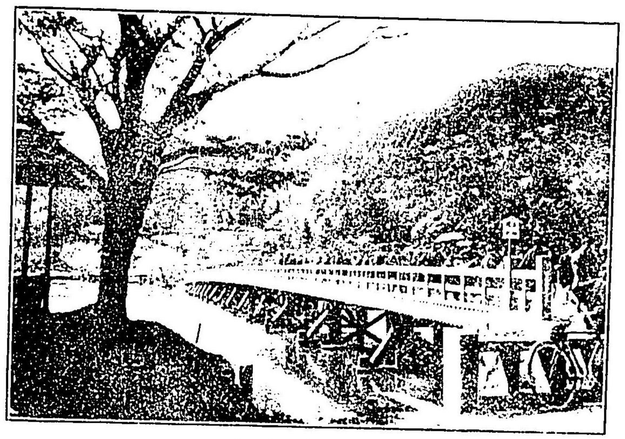
塔島浮景ノ治字



嵐山渡月橋



宇治ノ景浮島塔



嵐山渡月橋

京都名勝案内記〔附大遠忌記事〕

兩本願寺

智恩院

宗祖大遠忌

本派本願寺　眞宗の大本山にして、宗派の旺盛なるは我國第一とす、開祖は見眞大師諱は親鸞、姓藤原氏なり、本堂には親鸞上人自作の像を安置す、此の像は息女覺信尼に授けし者にして親鸞寂後骨を粉碎し、漆に和して表面に塗色す、故に骨肉の御影と稱す、長さ二尺五寸餘の坐像なり、廟舍を智恩院境内に造營せしが、其後屢々戰亂にあひ、現今の所に移轉し遂に一大伽藍を建立せり〔天正十九年一月十余萬歩を〔豊臣秀吉寺地として寄附す〕殿堂宏壯雄麗にして、四脚門、大玄門、白書院、集會所、對面所、鼓堂等あり、何れも豊公が桃山の遺構を移せしものにして人目を驚かす、殊に飛雲閣は聚樂邸の遺物にして結構高逸奇巧を極め、現に特別保護建造物となれり、毎年一月九日より七日間、開祖の忌日の修法を報恩講と稱へ、晝夜四坐づゝを營ひに莊嚴なる讀經を修す、俗に御霜月御佛事と稱し、著名なる法要なり、殊に本年は開祖の六百五十回の大遠忌を、來る三月十六日より廿五日迄、四月七日より十六日迄の二期に分ち、前後二十日間莊嚴なる法要を修行す、擧式の順序は詳かならざるも既に、各種の建造物は大修繕を施し、全部の竣成を告げ、眞に風致園として東方にありしものは、今や坦々たる道路と化し、寺界には、柳櫻樹をこき交せて植ゑ付け、以て全國團体參拜者の集合所に充つるといふ、偖此大法要には、全國幾萬の僧侶信徒の參詣するやは未知數なるも、目下七百萬以上と算する門末なれば、新に布教圏を編成

し、客歳より大布教の爲め使僧を全國に派遣せしめたれば、各地の門末信徒の競ふて參詣するならむか、本山に於ても之れ等に充分の便宜を與へん事を期し、そが係員を任命し、各部門を分つて準備に從ひつゝあり、而して帝國鐵道院にては四拾餘萬圓を投資し、大法要參詣者の爲め、本山に最近せる梅小路へ臨時に停車場の建設成り、東西よりの旅客をして、下車參詣に便ならしめ、大阪商船、大川運輸の兩會社は、滊車の便なさ參詣旅客の爲め、滊船一隻に三百名の豫定にて、大阪に運航し、臨時滊車を仕立て臨時停車場に運輸し、列車の到着する毎には、本山より係員、醫師、看護婦なを派出し參詣者をして充分ならしめん爲め本堂御影堂には各一千五百坪を有する、掛け出しを設け法要を遺憾なく參詣せしめ、宗祖の眞影參拜、書院の拜觀、歸敬式、法主、法嗣、裏方等のお逢ひなどを催すの外日夜各所に於ては演説又は説教を開催すと鳴呼宗祖の卓識大悲はそれ殆んど思識すべからざる盛事ならん

大谷派本願寺　眞宗大谷派の本山にては、本派本願寺第十一世顯如上人の時、慶長七年德川家康本願寺の勢力を憚かり之れを割かんと欲し、第十二世准如上人の長兄教如上人をして別に一寺を掬めんし、陽成天皇の勅許を得、茲に東本願寺と號し、門末を別つて之れに屬せしむ、眞宗の開祖親鸞上人より十二世の血脈を續く故により準御門跡を許さる、本堂は宗祖の像を安んず、殿堂屢々祝融の災に罹り、現今の建造物は明治廿八年に再建竣工せしものにして建築の宏壯粧飾の莊嚴にして實に人目を驚かしむ

本寺に於ても毎年十一月廿一日より七日間報恩講を修行し、詣饗群集熱鬧す、（法會は西本願寺と同一なれは略す）さて開祖の大遠忌法要は、遲れて本年四月十八日より廿七日迄の十日間にして、目下東都在住の老法主も歸山し、現法主と共に莊嚴なる擧式を執行すと、當寺にては各地の團体參詣の擧なく各門末の任意參拜となしたり、大師堂門は既に落成し、本堂、勅使、玄關の各門も新築され白、黑書院其他の建造も竣工したれば、舊に倍する壯觀を呈せり、本山にての催しものは參詣者に記念品を分配し歸敬式、両法主の對面、説教などにして、擧式の順序などは群かならざるも、一大本山の事なれば、さぞかし目覺ましき盛なる法要ならん

智恩院　華頂山大谷寺と號し、東山第一の名刹なり、淨土宗の總本山にして宗祖圓光大師宗風開發の靈場とす、高倉天皇の承安五年、始て東山吉水に草菴を結ぶ、境内には櫻楓樹多く殊に名あるは淺黄櫻なり、總門、本堂、勢至堂には享祿四年後奈良天皇より勅額を賜ふ、閼上には寶冠釋迦佛、十六經藏を安置す、本堂其他の建造物は善美を盡し、規模莊大、全國稀有の大伽藍なり殊に名高きは椽端の傘、廻廊の鷲張とす又狩野諸家の筆になれる襖の畫は最も珍とすべく鐘樓は東南隅に在り字内有數の巨鐘にして重量實に十餘萬斤なり、常に寶物の縱覽を許す、毎年四月十九日より七日間御忌を執行す、則ち開祖圓光大師の法要なり、詣饗の士女群集雜還す、本寺も宗祖の七百回忌を營む爲め數年前より準備に着手し各建造物の修繕等全部竣成したれば、本年三

月一日より七日迄、四月十九日より二十四日迄の二期に分ちて大遠忌法要を修行する事となれり、全寺にては既に門末の各參詣者には記章を配布し、三月の分は團体參詣四月は各自任意參詣とし、本山内には係員を任命し諸事萬端の事務を掌り全宗法義引立の爲め各所の末寺に於て、説教を開き大小方丈及び法要參觀の記念物配布を爲し賑々敷大遠忌を行ふ事となれり

大遠忌の内外設備

梅小路停車場 帝國鐵道院西部管理局所轄に屬し、各派本山宗祖大遠忌の爲め新設したる停車場は、工費實に四拾餘萬圓を投じ東西廿四間、南北八間の客待所にして、プラットは延長百三十余間あり、此の停車場は大遠忌參拜入洛者の爲め、特に新設したるものなれば、總ての設備既に成り、頗る擴大のものなれば、混雜を生ずるが如きは萬々なかるべしと、而してこの團体參詣旅客は三月一日より四月廿八日迄に西本願寺は二十二萬六千人東本願寺は十萬人知恩院は六萬人其他隨意參詣客を合算し實に六七十萬の花洛に集合する譯なれば、之れが輸送力は實に往復八百列車を編成せざるべからざる次第となり、既に團体列車の臨時發車日割の確定を見るに至れり

（三月一日より三月七日まで）智恩院團体
（三月十六日より三月廿五日まで）西本願寺團体（西部）
（四月七日より四月十六日まで）仝（東部）
（四月十七日より四月三十日まで）東本願寺團体

其他市内外には道路の修築、橋上の架設、

路傍便所の增設、一般家屋の清掃等既に修了を告げ、今や最大多數の參詣客を待ちつゝあり、然して入洛したる旅客に對しては充分懇切を主とし、市内一般に非常警戒をなし、土産物其他の買入等に就き不正なる商人其他一般の取締を嚴にし、以て地方入洛客をして、不安の念なからしめん事を期すべし、さて

西本願寺の設備 第一着には昨年十月既に布敎團を設け、全國各地に大布敎を試み、團体參詣を周旋したれば各係員は、日夜活動し、既に一切の準備成れり、然して法會の總裁に法主、副總裁に新法主、理事長に大谷尊由師、總務部長に後藤瑺爾師、法務部長に藤枝澤通師、布敎部長に楳上尊融師、參拜部長に本多惠隆師、度支部長に淺美明宣師、庶務部長に大洲鐵也師を以てし、六部の下に十六課を置き課長以下七百六十名の役員をして、諸般の設備に從事しつゝあり、而して各地より多數の參詣者席には、御影堂を中心とし本堂并に虎の間に接し千五百餘坪の假建出しを設け、別に集會所を本堂北方に百餘坪の假建築を設け、團体參拜者を十九班に分ち監督以下組長として、千四百五十名の任命をなせり、而して團体參詣者數は廿二萬六千四百五十名の申込を了し内三月に入洛するもの十一萬七千七百五十名、四月に入洛するもの十萬八千七百名なりと、之れ等の宿舍には、護持會本部を宿舍課事務所に充て、西六條境内二百餘箇の旅館、本山大仲居、平安中學校、慈善財團等を宿舍とし、衛生に就ては、眞宗信徒生命保險會社の五十餘坪の救護所、本山にては仮病院、私設電信局、京都赤十字社

支部、同衛生會等の救護事務に盡力するなど實に前代未聞の設備成れり

本願寺附近の設備　としては、七條、梅小路の両停車場、京阪電鐵昇降口の三ヶ所に大綵門を建設し、六條境内一圓には、本山旗と球燈を吊し祝意と參拜者歓迎を表し、團体參詣者の、梅小路驛に發着する毎に、本山よりは、役員、接待員、醫師、看護婦等出張し、煙火を打揚げ、樂隊の吹奏等を爲し、以て本願寺に送迎するの準備なり、

宮中舞樂御差遣　大遠忌法要執行中は、特に宮内省より陛下の思召により舞樂師御差遣あらせられ、總て宮中の調度により奏樂を爲す事あるやも計りがたし

法樂兼題　「法水流遠」と定め（詩歌通用）用紙を短冊として詠出期間を三月三十一日迄とし、本願寺大遠忌法要室内部宛に差出すべしと、こは宗祖の偉德、法要、其他本山に關する事項を題として、詠じたる詩歌にして、一々法主の手許に差出し淨書の上總て大谷本廟に供へ以て宗祖の靈を慰めんとするといふ

新聞發行　臨時法務院通報課に於ては、大遠忌法要は勿論、團体參詣に關する全般の出來事を、日々印刷に附し、三月十二日より四月二十日迄四十日間「大遠忌日報」と題し、新聞紙を發行し、一般參詣者に頒布す

寫眞陳列　本山教學發展の狀況を一般門末に知得せしむる爲め、著名の別院、説教所、會堂、學校、幼稚園、感化院等の建造物を撮影し陳列場を設け一々之れに説明を附し陳列を爲し參拜者に觀覽せしむ

特赦　末徒中、停法衣、停堂班、停説教、免住職、褫學階、罷教師、奪度牒等の處分を受けたるものは、悉く之を赦免する事に決したり

其他は、前述本派本願寺の記事中に詳なり

東本願寺の設備　西本願寺と大同小異にして別段に記述する處なし

智恩院の設備　本寺に於ても、東西本願寺と、ひとしく準備に多忙なりしも、潮次逼り來れる今日既に設備も完了し、團体參詣者に對する宿舍、輸送迎等に就ては、本願寺と全樣なるも宿舍にあつては。市内の末寺百七十餘ヶ寺を以てし、其他三條通粟田口より大橋小橋を中心とし、東西繩手、川端、木屋町、河原町、寺町、御幸町、歡屋町、富小路、柳馬場、南北は二條より五條の間を區域とし約五十餘戸の旅館を指定し總て準備成りたれば、一日平均三四萬の旅客を收容し得べく、此の團体、隨意參詣客は比較的高等ともいふべく、両本願寺の門徒に比しては、數等の比あるべし

御忌定桓式　奉修の御忌は初贊導師の役務奉仕を誓約せるの式にして、本年修法の導師は、尤も嚴肅なる式により、定桓式を擧行すといふ

宮中舞樂御差遣　宗祖圓光大師の御法要は後柏原天皇の大永四年に「毎年正月宗祖の忌辰を迎ふる毎に一七日間京畿の門葉を會して御忌を修すべし」との綸命ありしに基き遠忌と稱し五十年目毎の大遠忌には七日の法要中四日目を勅會と稱し、御拜の事ある上、法要中禁裏の舞樂を差遣はさるゝまでに重き格式を有するものにして、東山天皇の元祿十年の四百五十回忌より、孝明天皇の萬延二年の六百五十回忌まで毎回御歴代より大師號を賜はるを例としたる程なる

も、明治に入りて諸事革新の結果、勅會の事も、廢せられ、大師號下賜の事もなかるべけれど、歴代皇室の御歸依淺からざる事とて、宮中舞樂御差遣の事だけは、今回の大法要にも三月一日より七日までの第一法會には、宮内省より芝樂長以下三十一名の樂師參列の事に決定し、二月二十六日を以て宮内省出發、廿七日入洛、舞樂は、總て宮中の調度を以て奏樂する事に決定し居れりと、斯くの如く宮中に於ても、特別の御取扱ある事とて、同寺宗務所に於ける、御忌に對する設備は頗る熱烈のものにして擧宗一致刻苦經營の余り今や一切の設備も完成したり

紀念營繕　には實に三十六萬五千圓を費し阿彌陀堂、附屬建築を爲し、其他十七萬圓余を費し外殿、本廟、大小方丈、各樓門の營繕を爲す等、面目一新壯嚴の大伽藍にして、一門無二の盛典を迎ふる事なり

團体參詣者　一番には北海道の信者を先登に合計七万人に及ぶ筈なり、一向專念の眞宗信徒の參詣旅客と異り、地方有力者多き摸樣なれば、花鳥喧和の好時期に於ける、東山は、新に

大緑門　を建設し、大アーク燈數基を增設したれば、夜間と雖ども、盡尚は繁き盛況ならん、其他の設備は、両本願寺と、全樣ならば茲には省畧す

名勝舊跡

山城國

畿内の東北隅に位し、東西十四里、南北十六里にして面積五十二方里あり、一市八郡より成りて、山河襟帶中央に平安城あり、之を京都市といふ、五畿八道の首國なり

京都市

東西二里十四町、南北一里四十町、面積一方里餘、戶數七萬餘戶、人口約五十萬ありて、鴨川に跨り市街依然碁盤の目の如し、沿革は、遠く桓武天皇延曆十二年正月藤原小黑麿紀古佐美僧賢璟等に勅して山背國葛野郡宇多村に地を相し、帝都を奈良より奠鼎し玉ふ、此時山背の國號を山城と改む、當時頗る宏謨にして左右の両京あり、中央に、皇居巍然として位し、宮殿の雄麗仰ぎ奉るも餘あり、目下の京都は僅かに當時の左京を存するのみ、されど尚ほ市井の整しき、街衢の古雅典麗にして清潔なる實に今も吾國都會の摸範として帝都の面目を儼存し、明治の東遷に至るまで實に一千有餘年間の帝都たりし所なれば、名所古蹟に富み四圍の風景亦其比を見ず、春夏秋冬内外遊覽の客絶ゆる事なく、今や世界の樂園地と稱するに至りしは、敢て過稱する處にあらざるなり

東寺　教王護國寺と號す、延曆十五年桓武天皇の御宇朱雀門の東西に二院を建立し賜ふ、後ち嵯峨天皇弘仁十四年に至り西院を守敏に賜ひ、東寺を弘法大師に賜ふ、七堂伽藍儼然として五重塔は金堂の東南に在り殿堂宏麗、寶塔天空を凌ぎ、老樹茂り風景佳に毎年一月八日より七日間御修法と稱し

寶祚無窮、國體加護の爲、宮中後七日の勤行あり、四月廿一日は御影供と稱し弘法大師入滅の日なれば、尤も莊嚴に修法し、六月十五日は降誕會と稱し、弘法大師の降誕せられたる日なるにより尤も善美に法會を執行し盛況を呈す、其他毎月廿一日は例月法要を執行す

本圓寺　大光山と號す、日蓮宗一致派の本山にして大伽藍なり

稻荷神社　官幣大社にして貪稻魂神素盞嗚尊大市比賣神大己貴尊外四大神を祭神とす和銅四年二月午日後山なる三ヶ峯に垂跡し給ひしを延喜八年左大臣藤原時平公、社殿を造築し、永享十年足利義教の命を以て現今の地に遷座せり、殿舍壯麗諸國より參詣するもの絶ゆるなく、毎年二月午の日を初午と稱し、四月中午日を以て渡御祭を執行し、十一月八日は火焚祭を行ひ、何れも熱鬧雜遝すること甚だし

東福寺　惠日山と號し、禪宗臨濟派の本山にして五山の一なり、聖一國師の開基にして、大伽藍なりしも明治年間本堂を燒失し今は山門開山塔通天橋等あり、山門は足利義持の筆になる扁額を掲げ、幽雅なる深溪の上に架するを通天橋と稱す、四方楓樹にして橋上より下瞰すれば清溪に映照し、恰も仙境に入るが如く絶景いわんかたなし、當寺什寶中には有名なる兆殿司の涅槃像あり毎年三月十五日大法要を執行し、之を縱覽せしむ、此寺の東に九條公の廟堂あり

泉涌寺　開基は弘法大師にして麓より清泉涌出するを以て其名あり、初め眞言宗なりしも後、天台となり又俊茂法師の中興により天台、眞言禪戒の四宗を兼修す、當寺

は朝廷の御香華所にして四條天皇以後歷代の御陵墓あり、風景頗る幽靜にして、佛牙の舍利は二重の金塔に藏め舍利殿に奉置す

三十三間堂　最初鳥羽法皇この地に三十三間堂を建立し、得長壽院と名づけ、千体の觀音を安んじ給ひしが其後長寛元年後白河上皇又々三十三間堂を建て千体の觀音を安じ蓮華王院と名づけ給ふ、後ち建長三年兩院を併せて一院となし今は蓮華王院と號す現今の堂宇は其時のものにして南北六十六間あり二間を隔てゝ柱を建つるが故に三十三間堂と稱す、堂前燕子花を以て名あり

大佛殿　天台宗延曆寺に屬し方廣寺と號す往古の木像は立像なりしも寛正十年七月雷火に罹り燒亡し、天保四年半身像となす當外廓の巨石は大阪城築造の殘餘なり、梵鐘は國家安康の句によりて名あり豐臣秀頼公の鑄造にして重量十萬六千餘斤といふ

豐國神社　祭神は豐臣秀吉公にして慶長四年朝廷より正一位を贈られ豐國大明神の諡號を下すに至り新に社殿を造營す、表門は桃山城より移せしものにして國寶となれり境内荻多く秋期に至れば來り遊ぶもの甚だ多く、熱鬧繁盛を極む

豐國廟　阿彌陀ヶ峰にあり慶長三年秀吉公の薨するや此の地に葬りたるも、德川氏の世となり全く破毀せられ荒蕪に委したりしも明治三十一年之を修築したり

西大谷　眞宗本派本願寺の廟所、親鸞上人の本廟なり、本堂には阿彌陀佛を安す、廟所は本堂の東に在り、左右石垣を繞らし顯如上人以後の墳墓あり、門前の池を皎月池と稱し、之れに架する石造橋を圓通橋といふ、世俗目鏡橋と稱す、池中蓮多く四時の

風光佳絶を極め左青龍の名境たり

清水寺　奈良興福寺に屬し、大同二年將軍阪上田村麿の創建にして、西國第十六番の札所なり、本堂には十一面千手千眼觀音大士の像を安置す、本堂は檜皮葺にして、紫震殿を形造れり、懸崖の上に建たる舞臺は本堂に正面す、此處より眺望すれば山城の西南部は一眸の中に收め得べし、寺の下溪を新高雄といふ楓樹甚だ多く、北には櫻萩などありて四季共に眺よし、其他奥の院の下には、音羽瀧あり、水質清冽三條に分れ落ち世に頗る名高し

清閑寺　維新の砲、月照上人と西郷南洲と會見したる舊蹟にして、小督局の墓あり

八坂塔　法觀寺と稱し、平德太子の建造に係り、我國寶塔の最初なり、往昔は大伽藍ありしも今は僅に一部を存するのみ

高臺寺　慶長年中、秀吉公北の政所、高臺院の建立にして、中興は三江和尚なり、方丈の唐門は秀吉公の祝樓にして名高かりしも明治年間燒失し、今はたゞ開山堂、太閤及び夫人の靈廟を殘すのみなり、境内櫻樹栽多し、後山に傘亭、時雨亭、等の茶亭あり、後山を靈山と稱し招魂碑社祀念碑を建て其他、勤王家の碑あり

八坂神社　官幣中社にして祭神は素盞烏尊に稲田姫八王子を合祀す、殿舍壯麗にして下河原を正面とし西門は祇園町に向へり正門を南大門と稱し其向ふに石造大鳥居あり八坂神社の額を掲ぐ西門を西大門といふ左右に隨身を安ず、石段を降れば祇園町なり毎年六月十五日を官祭とし、七月十七日と廿四日を私祭とす、此祭式には氏子各町より美麗に粧飾せる多くの山鉾を曳き出し、

神輿の渡御あり、其華美なる、實に日本神祭中の第一と稱すべし

東大谷　眞宗大谷派本願寺の廟所にして堂宇壯麗、門前に松林あり翠綠滴らんとす親鸞上人の廟所は後の山腹にあり、境内清淨、實に靈地たるに背かず、同宗門徒の遺骨を納むる所なり

圓山公園　京都唯一の公園にして、殊に有名なる枝垂櫻は中央小丘の上にあり、千年を經たる大樹にして其高さ三十尺余枝葉長く四方に垂れて花時に望めば雪山の皚々たるが如く其美觀言語筆紙の盡す處にあらず

植髮堂　親鸞上人の得度したる舊蹟にして本尊阿彌陀、右脇に上人九歳の植髮木像を安置す

大極殿　官幣大社にして平安神宮と號す明治二十八年京都市に於て平安奠都千百年祭を擧行するや、舊制に倣ひ、大極殿、應天門を摸造し、朱殿碧樓巍然として聳ゑ、京都の一偉觀たり、社後の神苑は萩の名所として其名高し、毎年十月二十二日時代祭を執行す、桓武天皇延暦遷都以來千百年間に於ける各時代の行裝をなせる行列を行ふ實に我國無比の奇觀たり

動物園　東宮殿下御慶事紀念として明治三十三年之を設け内外各國の珍禽奇獸を飼育し一般公衆の觀覽に供ふ、園内池あり噴水あり四時の草花は紅紫相競ひ常に一層の美觀を呈す

インクライン　蹴上日岡より南禪寺に到る迄陸路三百二十余間の急阪にレールを布設し水力電氣の作用により荷物を滿載せる船を上下し疏水運河の交通を便にする所にして日本唯一のものたり

南禪寺　臨濟派禪宗の大本山にして開山を大明國師とす、初め弘安年中龜山法皇此の地に離宮を建て給ひしを國師に賜ひ禪家五山の上と定め給ふ、山門を五鳳樓と云ふ佛殿は明治二十八年祝融に罹り燒失したるを仝四十三年再建落成し殿堂甚だ輪奐の美を呈す、當山の襖は總て狩野諸家の名筆に成りたるもの殊に水呑の虎など世に類なき珍品なり

永觀堂　淨土宗西山派に屬して來迎山禪林寺と號し永觀堂と稱す、本尊阿彌陀如來は世に著明なるみかへりの阿彌陀佛にして靈驗いと顯尊に來り參する人多し、境内に池水あり水邊楓樹多く秋に到れば滿目楓錦紅帶の美を織りなして都人の遊賞するもの那集し甚だ美觀を添ふ、實に都下屈指の紅葉名所と爲す

安樂寺　淨土宗にして住蓮山安樂寺と號し本堂に惠心僧都の自作にかゝる阿彌陀如來を安置す、當寺は法然上人の高弟住蓮、安樂二僧の住する處なりければ後に因んで寺號と爲したるなり、境内は瀟洒として高爽の氣に富み、鈴鐸の風に吟ずるを聞く靈境にして世に名高き松虫、鈴虫の舊蹟は茲にあり來り賽詣するもの常に絶ず

法然院　淨土宗の開基法然上人の常住せし處にして善喜山萬無寺と號す、境内清雅幽翛を極め意興自から淨化するの感あり、誠に棲靈の勝區と稱すべし

銀閣寺　禪宗にして慈照寺を號し、相國寺に屬す、文明二年足利義政が營造したる別莊にして薨後遺命に據り寺門と爲す、著名なる銀閣は二重閣にして閣上遍く銀箔を以て貼り詰めたるものなるが、今は剝落した

るも所在に銀色を點綴して尙往古の莊麗美觀を偲ぶに足る、閣の檀上には名工運慶の作になりたる觀世音の坐像を奉安したり、又林泉は義政が相阿彌に下命して造らしめたるもの、古雅幽絶實に仙苑の趣を爲して頗る古色蒼然たり、後世造苑の範と爲す稀世の名苑と稱すべし、池苑の東端に位し茶室あり之れ四疊半室の濫觴にして名高きもの其他寶汁を始め奇石珍木の人目を驚すもの多く、考古の資料となるべきもの頗る多し

吉田神社　本社は清和帝の貞觀元年、藤原山陰の建立したるものにして、一條帝の永延元年始めて官幣に列し玉ふ、奈良京の春日社、長岡京の大原野と俱に平安京の守護神なり、維新後官幣中社に列し玉ふ、祭神は健美賀豆名命、伊波比主命、天兒屋根命比賣大命の四坐神となす、境内松栢老杉幽鬱として邃雅、見からに神威の尊さを覺ゆ

眞如堂　鈴聲山眞正極樂寺と號し天台宗の本山なり、本尊阿彌陀如來は慈覺大師が近江國志賀郡苗鹿明神より夢想に依り授かりし神木を以て彫造せしもの靈驗いと顯妙たり、境内淸邃閑雅にして楓樹多く中秋の頃に到れば觀楓の眺望絶佳を極め、遊客の雜踏する事夥し

黑谷　淨土宗西山派の總本山にして紫雲山金戒光明寺と稱す、堂前に老松あり熊谷直實が鎧を懸けたりとて世に鎧懸の松と云ふ寺内に直實及び敦盛の二塔あり山腹に文殊塔あり、當山第一の靈石なりとす、境内松杉蓊鬱として幽邃を極め、自から鈴鐸の風に吟ずを聞く思あり

帝國大學　吉田町吉田山の西麓にあり、明

治二十八年の創立にして、醫科、法科、理工科、文科、の各校舎聳然堂々とし松栢點綴せる間に望む又一偉觀たり、別に聖護院町に附屬大學病院を設け一般患者の來診を爲す

百万遍智恩寺　田中村にあり、淨土宗鎮西四個本山の一にして長徳山智恩寺と稱す、元弘年間疫癘を攘ひし利劒の名號百万遍の大念珠は世に著名なるものにして、當寺の寶什として秘藏する處なり、堂宇莊嚴にして古色蒼然、邃雅を極め塵寰を止めず、實に清麗なる靈蹟なりとす

下鴨神社　官幣大社にして火雷神、玉依姫を奉祀す、欽明天皇の御宇始めて創祀する處にして、天武天皇の白鳳五年に殿堂樓閣を造營し、桓武帝平安奠都以來、皇城の鎮護として歷聖の尊崇常に厚く、列年五月十五日を以て官祭を執行し、葵祭と稱す、昔時は全日至尊王駕に召して行啓御拜ありしも維新後聖上東遷し賜ひしより全日は勅使を以て、御代拜を爲さしめ玉ふ、以て如何に當社が朝家の尊信大なる哉を見るを得べし、境内に紀の神苑あり、靈泉湧出して洵に清涼を極め、老樹蒼鬱、翠滴を止めて神林高爽、神さびたり、攝社に川合神社及び格神社なゞわり

相國寺　御苑の北に位し、禪宗五山の一なり、永徳年間豆利義滿の創立する處にして夢想國師の開基なりとす、寺號を萬年山相國承天禪寺と號し堂宇高壯輪奐の美を極め境内清邃蒼然として雅趣脩然、意興ともに淨きものあり、寺内に名高き鶯宿梅あり其他寶什珍器多く秘藏せらる就て見るべし

御所　東は寺町に起り西は烏丸に到る、北

は今出川通にして南は丸太町通と爲し此區域東西六町、南北十一町、面積二十五萬餘坪あり、四面繞らすに石垣を以てし、苑内一面に芝生と爲され梅桃柳櫻等の諸樹は青松と共に掩映して四時の風光頗る絶佳を呈す、南にあるを堺町御門、東にあるを寺町御門、石薬師御門北にあるを今出川御門西にあるを乾御門、中立賣御門、蛤御門下立賣御門と稱す、苑内に舊御所を初め大宮、仙洞御所、賀陽宮御邸、主殿寮出張所、白雲神社、宗像神社、京都側候所なゞなり、有名なる紫震殿は舊御所内にあり

大德寺　禪宗に屬し、開基は大燈國師なり後醍醐帝の勅願所にして、正中元年の建立一休禪師も久しく茲に居住す塔中名院多し

建勳神社　舟岡山と稱す、祭神には織田信長公を祀る、後玄武に位置せば眺望頗る佳絶なり

北野神社　官幣中社にして菅原道眞公を祀る、村上天皇の天暦元年に奉祀し、現今の神殿は慶長十二年豊臣秀吉公の改造する處にして八棟造なり、總て檜材を以てし、神寶の中には、北野緣起といふ繪卷物あり、藤原信實の畫にして稀世の逸品たり、境内神苑には、紅白の梅樹多く初春は清香馥郁として仙境に入るの觀あり、毎年十月四日私祭を執行す、稱して、ずいき祭と名高し

平野神社　官幣大社にして、祭神は今木神久度神古開神比賣大神の四座を祀る、境内櫻樹夥しく、平野の夜櫻として頗る名高し

金閣寺　禪宗にして鹿苑寺と號す、衣笠山の麓にあり、應永四年足利義滿の建造せし山莊にして、夢窓國師を追請し開基とす、義滿を鹿苑院殿と號せしを以て寺稱あり、

金閣は三層にして、下層を法水院といひ中層を潮音洞といひ上層を究竟頂といふ、天井は四間四方、楠の一枚板にして閣の四方皆金箔を貼りたるもの、今尚ほ金色の存在する處あり、床の柱は南天樹を以てし、欄干は萩の枝を用ふ、閣下の池を鏡湖池といい專ら清趣を極めたれば入洛者は必ず杖を曳かざるべからず

等持院　鳳凰山と號す、開基は夢窓國師にして、足利將軍數代の木像を安置す

御室　眞言宗にして、仁和寺と號す、光孝天皇仁和四年の創建にして、宇多天皇御落飾の後、當寺に入らせ給ひ宮殿を營ませ給ひて、大内山又は御室といふ、本堂金堂大師堂五重塔山門等、何れも宏壯にして境内櫻樹多く、總て樹幹短く花大にして名高し

妙心寺　禪宗にして、開山は關山國師なり

伽藍は、花園上皇の離宮を以てす、殿堂宏壯にして、境内老松多く閑佳の地なり

神泉苑　桓武天皇臨幸以來歷代の天皇臨幸あらせられたる苑池にして、弘法大師、小野小町の雨を祈りし舊蹟なり、苑内清趣四季の風景佳絶なり

二條城　慶長年間の築造にして、德川家康初めて入城す、維新の際假りに太政官と爲す、聖上東遷の後は京都府廳とせしも、明治十七年宮内省の所轄となりて、現時は二條離宮と稱す

六角堂　天台宗に屬し、頂法寺と號す、聖德太子の開基せし處なり、本寺は如意輪觀音を安置す、一寸八分の金佛なり、本堂は六角形にして、西國第十八番の札所なり、昔淡路國岩屋浦の海中より獲たるものなりといふ、眞宗の宗祖親鸞上人が叡山より百

日間茲に參詣し、本寺の靈告により、法然上人に隨侍し、遂に一宗開基の因をなせしは、世の知る所なり、當寺に池の坊あり、立花の祖家にして名高し

誓願寺　淨土宗西山派に屬し、本寺は、阿彌陀佛の大像を安置す、春日佛師の作なり此位置新京極の中央なれば日夜雜鬧を極む

本能寺　日蓮宗にして、天正十年織田信長の明智光秀の爲に弑せられしといふ處なり其頃は六角小川にありしといふ

都踊　洛陽の花とも見るべく、濃艶華美の舞踊にして、毎年四月一日より三十日間祇園新地歌舞練場に開催す、出演者は總て五十三名を以てし、皆一樣の衣裳に、一樣の彩扇を取り、皷絃の音と俱に、歌曲たる「都踊はー」の嬌聲につれて「ヨーイヤサー」と艶喉一喚、一樣に麗音を揃へ、絃聲を和して聲曲宛然仙境の妙音の如く、歌を奏し絃を鳴らすの、佳曲妙扇は、實に洛陽の一名物たり、明治五年京都御苑内に始て博覽會の開催されたるに際し、地方よりの觀覽者來京の砌なれば、京洛の景氣を添ふる爲め、祇園一力樓主が主催したる者なり

嵐山　京都第一の勝地にして、大堰川に汾ひて上古は紅葉の勝地なりしが、龜山上皇嵯峨の仙洞にいませし頃、大和の吉野櫻を移し栽ゑ給ひしより專ら櫻花を以て名聲高く、春は櫻花、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪見、四時一として雅ならざるはなし、又麓より川に沿ひて六町ばかり登れば、大悲閣又は温泉あり、眺望絶佳なり凡そ京都に遊ぶもの一人として、嵐山に車を飛さざるものなし

法輪寺　虚空藏菩薩を安置す里俗十三歳に

達すれば、必ず參詣するの習慣あり、稱して十三詣りりといふ

大悲閣　本尊千手觀音を安置す、夢窓國師の作なり

保津川　開鑿者たる角倉了意の碑あり

保津川　上流を丹波及山城愛宕郡の渓谷より發し、山峽に入り、奇岩怪石の間を流れ兩岸の景、頗る佳し、輕舟に掉さして、此間を過ぐれば、愉絶快絶筆紙の盡す處にあらず、此の舟に乘らんと欲せば、京鶴鐵道に乘じ、渠車にて龜岡驛に下車し、此處より乘船し、嵐山に降る

京都の旅館　京都の旅館は其數八百有余の多きに及ぶと雖も、其内洋風の設備を爲し專ら外國人の宿泊に供するものは京都ホテル（河原町）二條北大日本ホテル（株式會社）（三條白川橋東）也阿彌ホテル（圓山公園）にして其位置風景眺望に富み市内出遊するに便利の地に在り其他中村樓（祇園島居前）も洋風の寢室を備ふるも、同家は料理店日本旅館兼業するを以て多數の外人を宿泊せしむるを得ず、普通旅館も夥多あるも一一列揭するの煩を避け、稍著名なるものを記述す

○中村樓（烏居前）○俵屋（鉄屋町姉小路北入）○松屋（上）○澤文（鉄屋町）○松吉（御幸町二北）○米定（三條北）○萬屋（三條）○吉岡屋（同上）○大津屋（同上）○山城屋（同上）○龜屋（三條小橋東）○吉田樓（二條南）○花外樓（同上）○柏亭（同上）○大津屋（同上）○西村屋（同上）○玉川樓（同上）○大可樓（同上）○富貴樓（同上）○竹島樓（同上）○鍵屋（三條大橋）○西屋（同町）○小川亭（手井下河原）○上田屋（四條上）○若彦（鉄屋町御池北）○木徳屋（町錦小路）○近又（御幸町錦）○綿善（柳馬場六角）○海老屋（烏丸）○富田屋（烏丸）○蛸藥師（同）○平新（東洞院）○千切屋（富小路）○肥前屋（綾小路烏丸）○八勘（松原下）○近太（柳馬場四條南）○八尾宗（高倉

松原）○無雙屋（室町四條）○桝吉（大橋）○增清（花屋町）○川六（中珠數屋町東洞院）○さし田（花屋町）○藤屋（魚棚油小路）○菊岡屋（七條停車場前）○玉家（伏見稻荷前）○澤文支店（御前通）○菊屋（宇治）○萬屋（上）○三軒家（嵐山）○嵐峽館（上同）○菊屋（伏見觀月橋畔）

其他の旅館と雖も客室の清淨、待遇の深切なる者多くあるを以て京都に於ける快適の旅館は前記の各戸に限らざるは旅客の記臆に存せられん事を希望す

宿泊料規定

天	一等	二等	三等
松	金壹圓	金八拾錢	金六拾錢
竹	金壹圓廿錢	金壹圓	金八拾錢
梅	金貳圓五十錢	金壹圓七十錢	金壹圓五十錢

壹飯料は宿泊料の半額以内とす

京都の電氣鉄道　市内幹線を七條停車場前を起点とし、東して東洞院を北へ七條を東へ新寺町を北へ五條を東へ高瀬川筋を北へ二條を西へ寺町を北へ丸太町を西へ烏丸を北へ下立賣を西へ堀川を北へ中立賣を西へ北野に至る、鴨東線を二條木屋町、幹線より分岐し二條を東へ疏水沿岸を南へ仁王門通を東へ疏水インクライン西側を南へ三條蹴上に至る、出町線を寺町丸太町の幹線より分岐し寺町を北へ今出川を東へ出町桝形を經て出町橋畔に至る、西洞院線を堀川下立賣の幹線より分岐し堀川を南へ四條を東へ西洞院に至り夫より七條停車場に至る、城南線を堀川押小路の西洞院線より分岐し押小路を西へ二條離宮南馬場を過ぎて千本なる京鶴鉄道線二條停車場に至る、伏見線を七條停車場を東へ高倉を南へ陸橋を渡り竹田街道を經て伏見町京橋に至る

京阪電氣鉄道　五條大橋を起点とし、伏見淀、山崎、を經て大阪天滿橋畔に通ず、電車は午前五時より午後十二時まで絶へず運轉す、各線とも一定の停車場あり

電車の賃錢　は一區毎に貳錢とす
但し現今は乘車切符を購ふ毎に通行稅壹錢を要す

人力車　市内は勿論近郡に至ると雖ども大体不通の所なきを以て茲には賃錢の標準額を揭ぐることゝす、警察が認可したる賃錢は市内平道一里十三錢にして郡部に上十錢以下の定めなり、先づ市内樞要なる起点地を三條大橋は知恩院附近七條停車場は東本願寺附近、西本願寺門前は全寺附近を標準とし著名の名所舊蹟に到る里程幷に賃金表を示さんに

三條大橋
七條停車場より
西本願寺

各地への里程及人力車賃錢表

名稱	自三條大橋里程、賃錢	自七條停車場里程、賃錢	自西本願寺里程、賃錢
三條大橋	○	三十四丁 十二錢	三十五丁 十五錢
平安神宮	十五丁 八錢	一里十二丁 二十錢	一里十一丁 廿二錢
動物園	十五丁 八錢	一里十四丁 二十錢	一里十丁 廿二錢
南禪寺	十八丁 八錢	一里十五丁 二十錢	一里十四丁 廿錢
黑谷	二十丁 十一錢	一里十六丁 廿五錢	一里十七丁 廿四錢
眞如堂	二十五丁 十三錢	一里廿一丁 廿五錢	一里廿二丁 廿八錢
銀閣寺	一里三丁 十八錢	一里廿四丁 廿八錢	一里廿五丁 卅二錢
智恩院	十二丁 六錢	一里一丁 十四錢	一里二丁 十五錢
圓山公園	十四丁 七錢	一里一丁 十四錢	一里二丁 十五錢
東大谷	十四丁 七錢	一里 十四錢	一里一丁 十五錢
八坂神社	十四丁 七錢	二十八丁 十二錢	三十二丁 十五錢
四條大橋	四六丁	二十四丁 十二錢	二十八丁 十三錢
高台寺	十七丁 十錢	二十九丁 十四錢	二十七丁 十七錢
清水寺	二十一丁 十錢	三十一丁 十六錢	卅三丁 十八錢
西大谷	十九丁 十二錢	二十三丁 十錢	二十八丁 十三錢
大佛	十八丁 十錢	十四丁 八錢	二十丁 八錢
三十三間堂	二十丁 十錢	十一丁 八錢	十六丁 八錢
東福寺	二十七丁 十四錢	二十三丁 十錢	二十九丁 十五錢
稻荷神社	一里六丁 十七錢	三十丁 十五錢	一里二丁 十七錢

新京極	五丁 六錢	二十三丁 十二錢	二十四丁 十三錢
五條大橋	十一丁 七錢	十四丁 八錢	十九丁 八錢
六角堂	十二丁 六錢	二十一丁 十二錢	二十二丁 十二錢
東本願寺	二十六丁 十一錢	四五丁	九五丁
西本願寺	三十五丁 十五錢	十七丁	○
東寺	一里十四丁 十八錢	十五丁 八錢	十四丁 五錢
御所	二十一丁 十錢	卅五丁 十七錢	卅五丁 十七錢
二條停車場	卅二丁 十二錢	一里五丁 十七錢	三十一丁 十二錢
大德寺	一里卅丁 二十八錢	一里三十丁 三十二錢	二里 三十五錢
北野神社	一里十七丁 二十錢	一里廿五丁 廿五錢	一里十五丁 二十錢
金閣寺	一里廿七丁 廿四錢	二里 三十二錢	一里廿五丁 廿四錢
宮本商店	十四丁 八錢	十一丁 七錢	十二丁 七錢

備考　以上指定地附近五丁以内は金二錢より參錢を增減し尙ほ雨中雨後は二割以内を增加す又夜間風雨道路泥濘の時は四割以内を增加し二人輓きは倍額とし「ゴム」輪車休は二割增加す
一日（八時間）雇切は八十五錢とし、半日（四時間）雇切は金五十錢とす

小包郵便

同一郵便局區内　普通金四錢　書留金八錢

内地普通

	内地書留
二百目迄	八錢
四百目迄	十二錢
六百目迄	十六錢
八百目迄	二十錢
一貫目迄	廿四錢
一貫二百目迄	廿八錢
一貫四百目迄	三十二錢
一貫六百目迄	廿六錢

台灣、樺太、清國、朝鮮

	内地書留
二百目迄	三十錢
四百目迄	三十五錢
六百目迄	四十錢
九百目迄	五十錢
一貫二百目迄	六十錢
一貫五百目迄	七十錢

郵便爲替料

十圓迄	十錢
二十圓迄	二十錢
三十圓迄	三十錢
四十圓迄	四十錢
五十圓迄	五十錢

電信爲替料

十圓迄	三十錢
二十圓迄	四十錢
三十圓迄	五十錢
四十圓迄	五十錢
五十圓迄	五十錢

瀛車時間表（京都驛發車）

東海道線

上り列車

發時	終着驛
午前十時四分	新橋
五時卅五分	馬場
六時卅八分	魚津
七時卅八分	沼津
八時廿三分	馬場
九時廿五分	新根
九時四十二分	馬場
十時四十四分	富山
午後十時五十四分	馬場
十二時〇四分	新橋
二時五十八分	馬場
二時五十七分	新橋
四時五十八分	馬場（ナゴヤ）
六時十五分	米原
七時十一分	新橋
八時廿二分	新橋
九時廿五分	馬場
十時十五分	新橋

下り列車

發時	終着驛
午前五時四十分	神戸
五時廿八分	下關
六時五十八分	城崎
七時十四分	神戸
八時廿七分	神戸
九時廿三分	大阪
十時十七分	姫路
十時三十九分	神戸
十時五十八分	神戸
十一時廿七分	姫路
午後十二時廿四分	明石
一時廿七分	姫路
二時十一分	岡山
三時廿六分	姫路
三時五十八分	明石
四時十六分	姫路
五時廿九分	明石
五時廿九分	姫路

舊奈良線

發時	終着驛
午前六時四十五分	奈良
七時廿八分	全
九時廿五分	全
十時十四分	全
十二時〇七分	明石
六時三十八分	姫路
七時十五分	大阪
七時四十三分	神戸
八時〇三分	明石
八時四十五分	下關
九時廿二分	神戸
十時十一分	大阪

新舞鶴線

發時	終着驛
午後一時十五分	奈良
三時四十三分	全
五時三十三分	全
六時十五分	全
八時〇五分	全
九時三十分	全

發時	終着驛
午前五時四十分	新舞（シンマイ）
七時五十七分	全（イヅルー）
八時四十三分	嵯峨
九時四十二分	全
十時四十五分	嵯峨
十二時廿五分	新舞
午後十二時四十分	嵯峨
一時四十五分	綾部
三時十分	嵯峨
四時〇五分	全
五時	新舞
六時四十五分	園部
八時	綾部
九時〇三分	嵯峨

明治四十四年二月廿三日印刷
明治四十四年二月廿五日發行

京都市下京區堺町通松原上ル夕顔町九番戸
編輯兼發行者　笠原鴨涯

京都市下京區寺町通松原上ル京極町十八番戸
印刷者　畑清次郎（電話二三八五番）

京都市下京區柳馬場通四條上ル相之町
印刷兼發行所　川本南洋堂

營業科目

一半襟各種一縮緬友仙玉糊
一羽二重友仙更紗一色縮緬
一西陣帶地一筑前男帶
一小紋縮緬石持一重掛帛紗
一紋羽二重、紋綾一帯皮、兵児帯
一肩衷地一頭巾、袖地帯上
一腰帯、裾除一其他各種

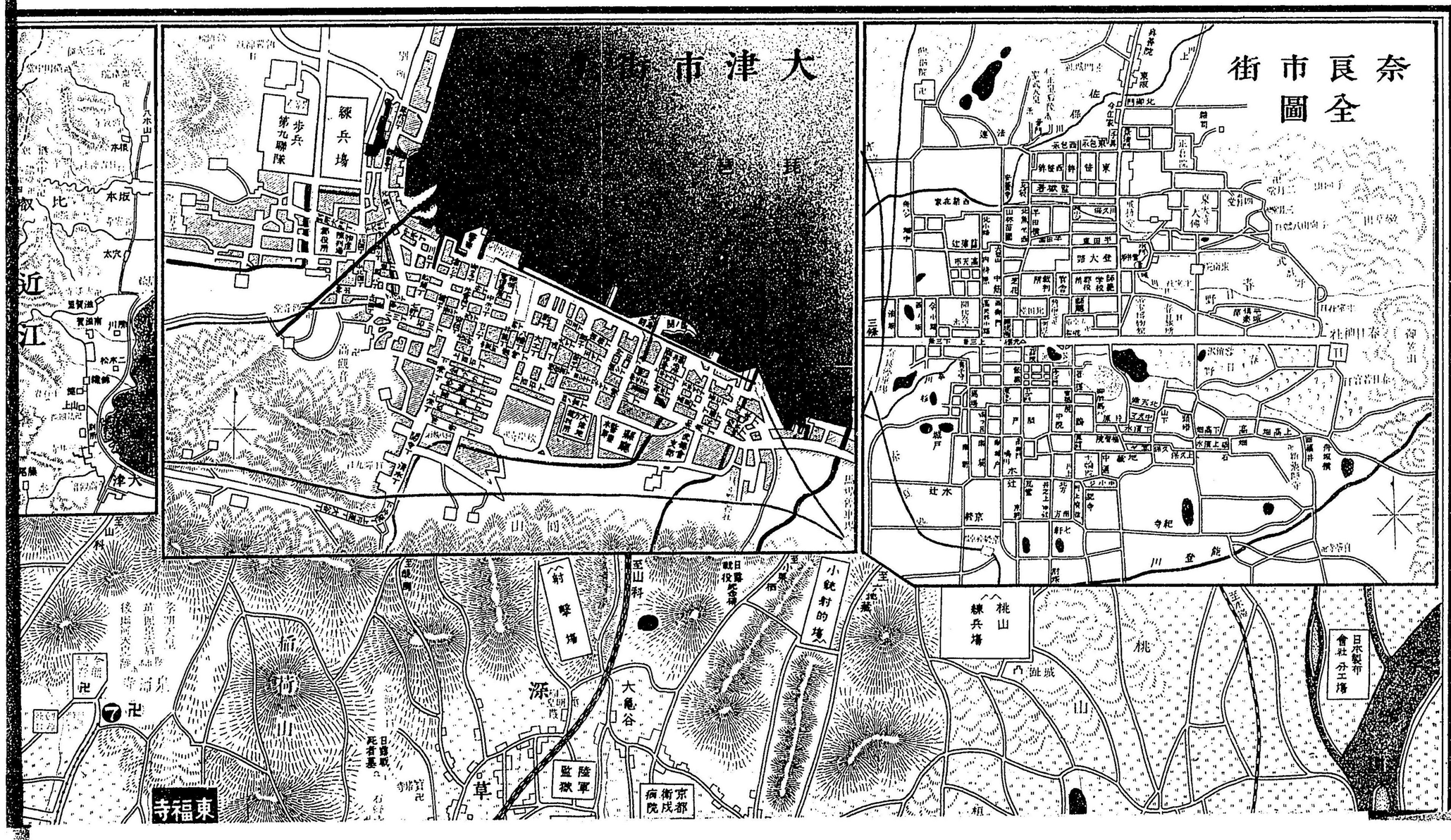
右ノ外東京文店ニテハ染絹并ニ西陣御召ヲ取扱ト申候

一弊店ハ正札販賣ニシテ平等均一價ヲ二セズ
一弊店ハ柄合ノ奇麗新價格廉ヲ長所トス
一弊店ハ叮嚀誠實ヲモトシ堅実ナル取引ヲ旨トス
一弊店ハ常ニ新衣ナル機関雑誌ヲ茂刊シテ顧客仕入上ノ便ニ提供ス

宮本儀助商店

本店……京都松原通西洞明門角
支店……東京市日本橋区通油町

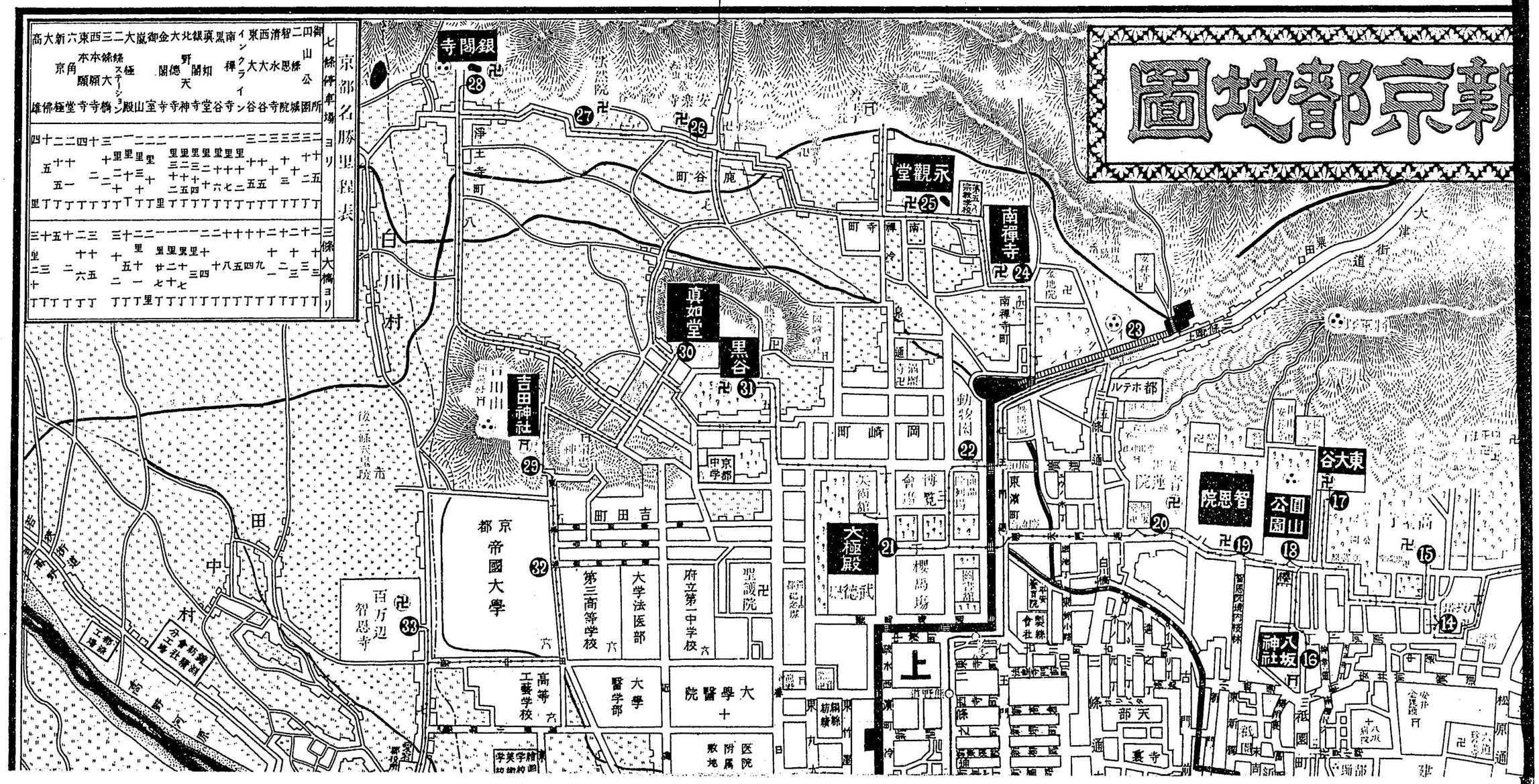
京阪電車線及嵐山電車線入名所道案内線



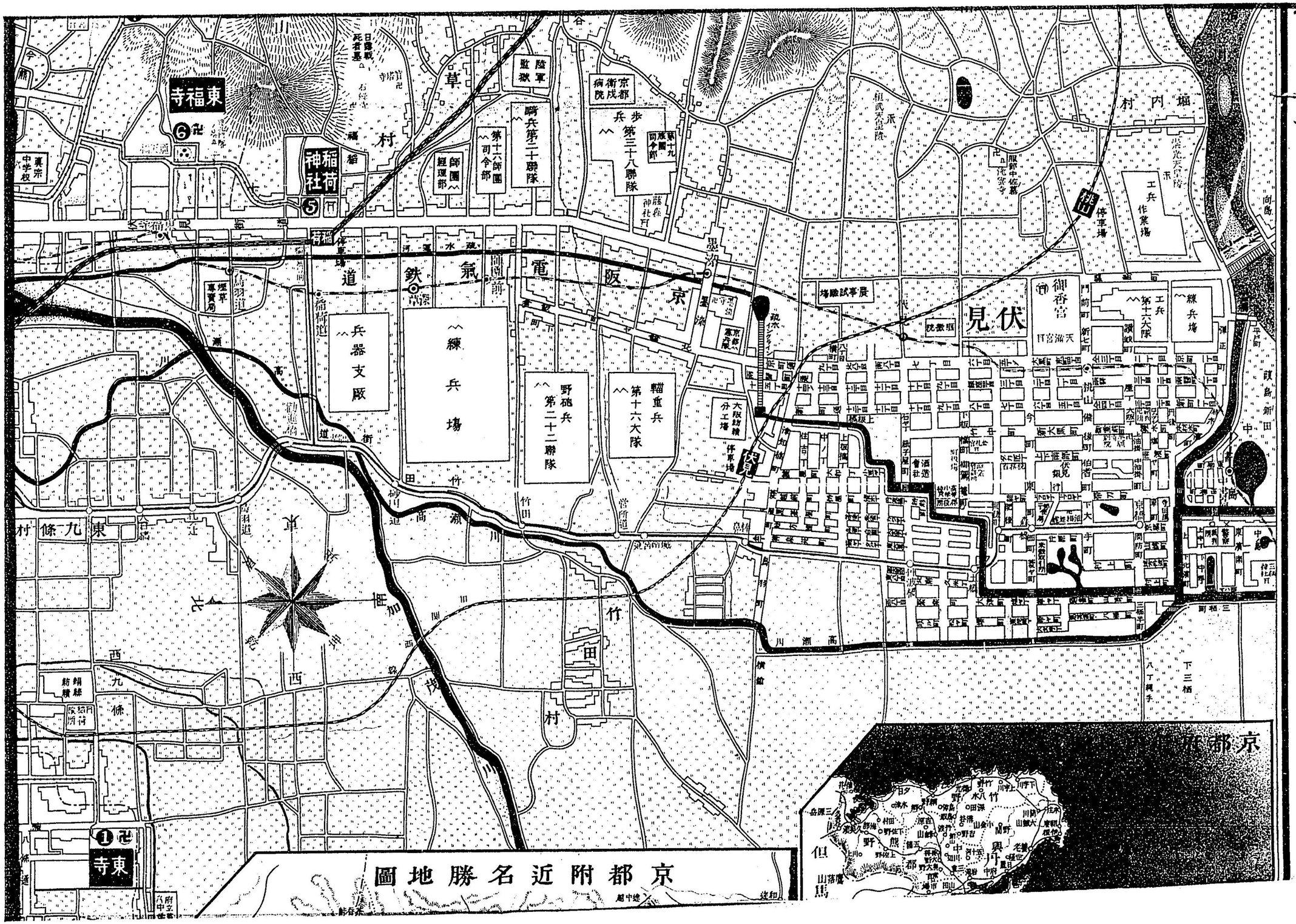
改正新案 最新京都地圖

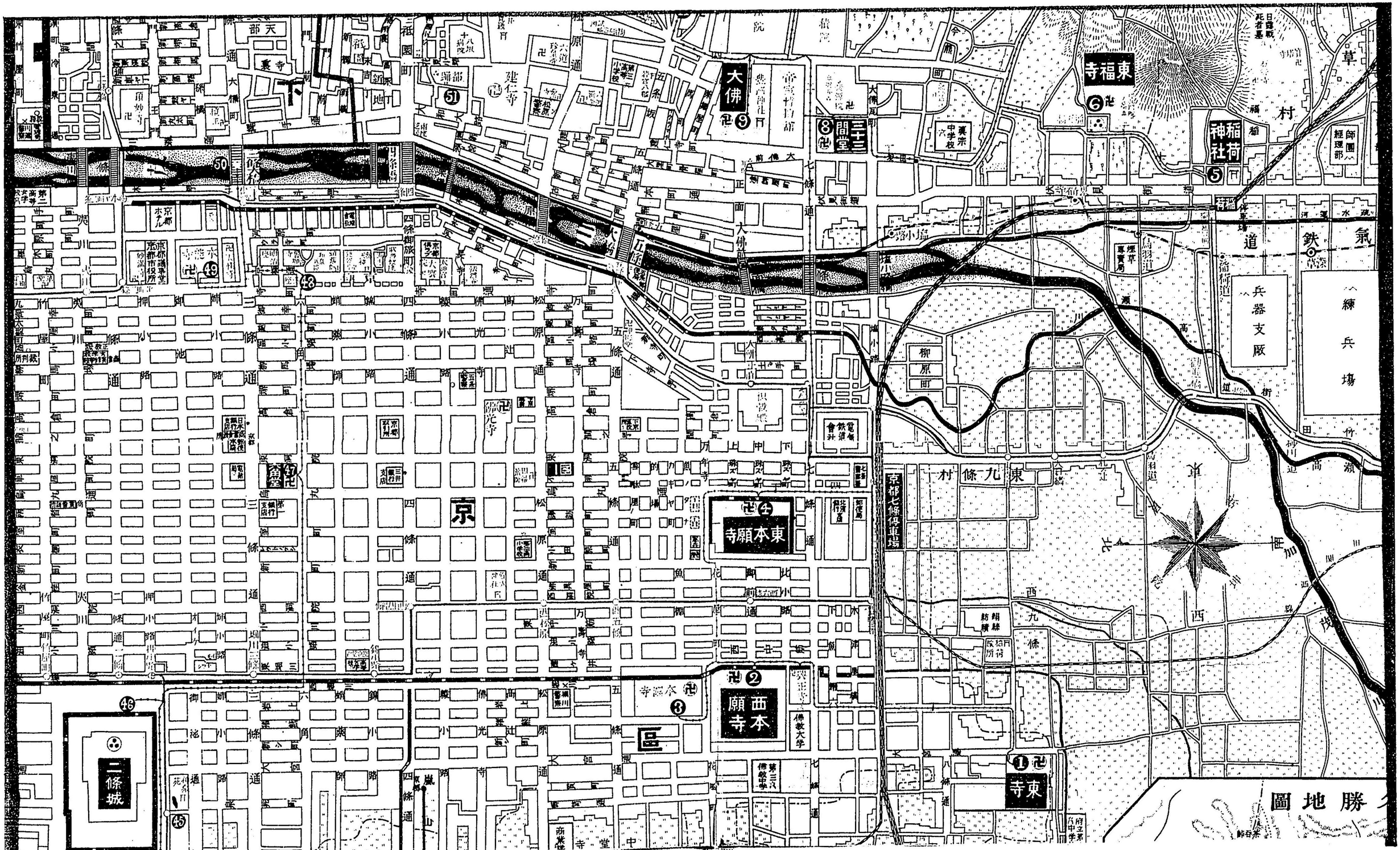
比叡山附近圖
比叡山
近江
大津
都京
清水寺
西大谷
東福寺
大谷
智恩院
圓山公園
八坂神社
高台寺
永觀堂
南禪寺
真如堂
黒谷
大極殿
上京
大學醫學院
大學法醫部
府立第一中學校
聖護院
櫻馬場
動物園
ルテホ都
大津街道
東海道本線
東海道線
東山
祇園
天部寺
妙法院
智積院
日吉病院
安井金毘羅
六道珍皇寺
八坂病院
東本願寺
西本願寺
京都帝國大學
京都府立第一中學校
博覽會
美術館
岡崎
鹿谷
寺樂安
南禪寺町
南禪寺
東山
祇園
清水
高台寺
知恩院
圓山公園
八坂神社
清水寺
日吉病院
妙法院
智積院
東福寺
大津

新京都地圖


京都名勝里程表
七條停車場ヨリ
高京雄 大佛 新極堂 六角本願寺 東本願寺 西本願寺 三條大橋 極樂殿 二寧坂 大谷寺 嵐山室 御室殿 金閣寺 大德寺 北野天神 銀閣寺 眞如堂 黑谷 南禪寺 インクライン 東大谷 西大谷 清水寺 智恩院 二條城 四條公園 御所
三條大橋ヨリ
銀閣寺
永觀堂
南禪寺
眞如堂
黑谷
吉田神社
動物園
大極殿
武德殿
櫻馬場
上
京都帝國大學
百万辺智恩寺
第三高等學校
大學法醫部
府立第一中學校
聖護院
大學醫學部
大學醫學部附屬病院
高等工藝學校
京都中學
吉田町
東山
白川村
田中村
大津街道
東口田
ルテホ都
東大谷
智恩院
圓山公園
八坂神社
天部寺
祇園町
南禪寺町
東濱町
白川橋
上野橋
加茂川
鴨川

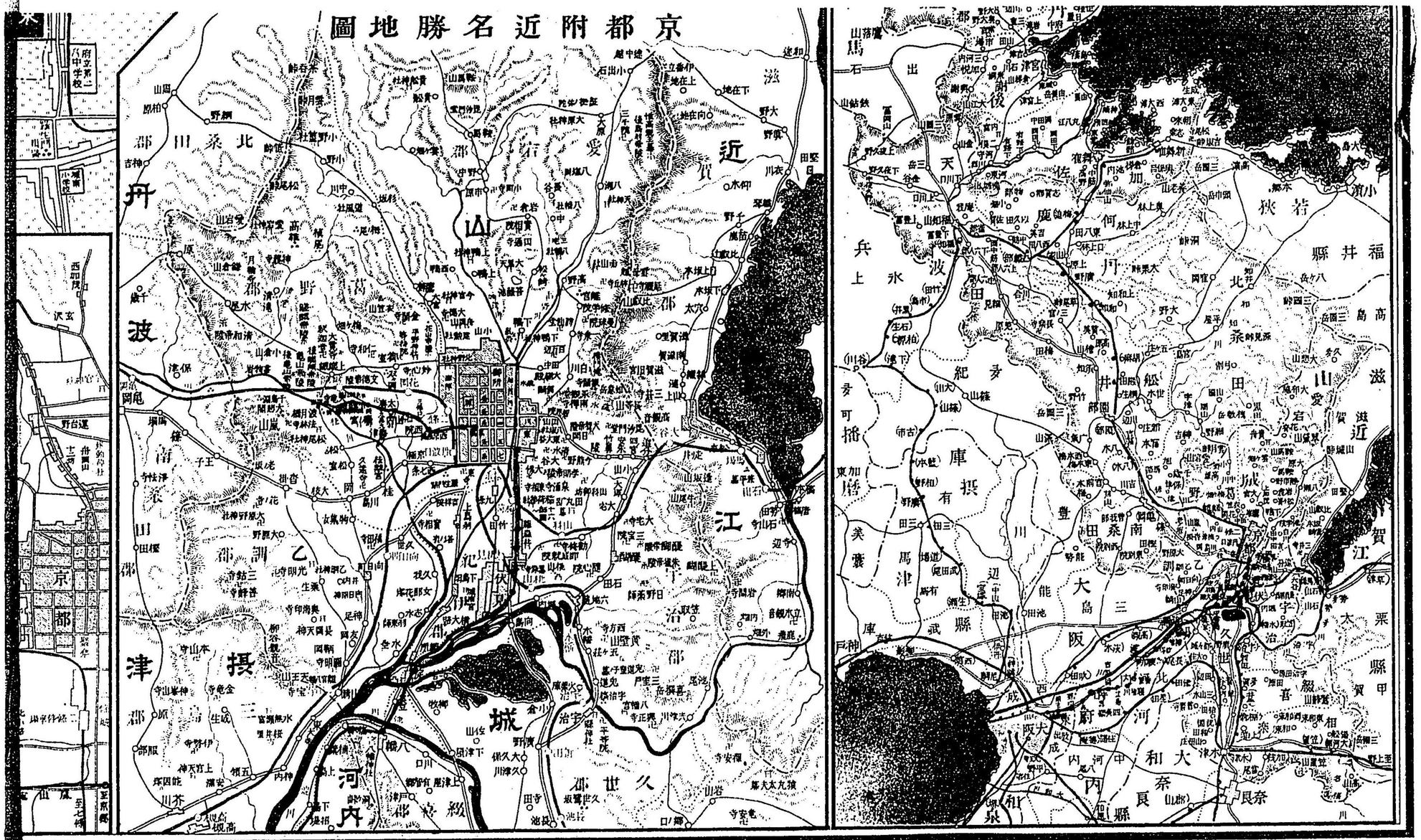
案内線入


京都附近名勝地圖
東福寺
稲荷神社
伏見
御香宮
練兵場
兵器支廠
工兵作業場
京都
大阪
鉄道
電氣
東九條村
西九條村
竹田村
東本願寺
西本願寺
加茂川
高瀬川
北
東
西
南
東寺


京都名勝地圖
東寺
西本願寺
東本願寺
大佛
三十三間堂
稲荷神社
東福寺
二條城
京都七條停車場
東九條村
柳原町
兵器支廠
練兵場
鉄道
氣
京都ホテル
京都市役所
京都帝國大學
佛教大學
第三高等學校
第三高等中學校
京都府立第一高等女學校
京都府立第一中學校
東本願寺中學校
師團經理部
日蓮聖人死者墓
建仁寺
妙法院
三十三間堂
大佛殿
東寺
西本願寺
本願寺
二條城
嵐山
北
東
西
南

下鴨神社
鴨
村
相國寺
御所
仙洞御所
大宮御所
同志社
圖書館
染織試験所
京都府
京都市役所
京都ホテル
京都織物會社
本能寺
建仁寺
妙顯寺
妙覚寺
府立師範學校
至上加茂
紫竹大門
二條城
京
西

京都附近名勝地圖


京都
滋賀
近江
山城
丹波
摂津
河内
大和
紀伊
播磨
但馬
丹後
若狭
伊賀
伊勢
美濃
加賀
能登
越中
越前
福井縣
滋賀縣
奈良縣
和泉
大阪
兵庫縣
鹿兒島
高島
太平洋

高雄及嵯峨保津名勝地圖

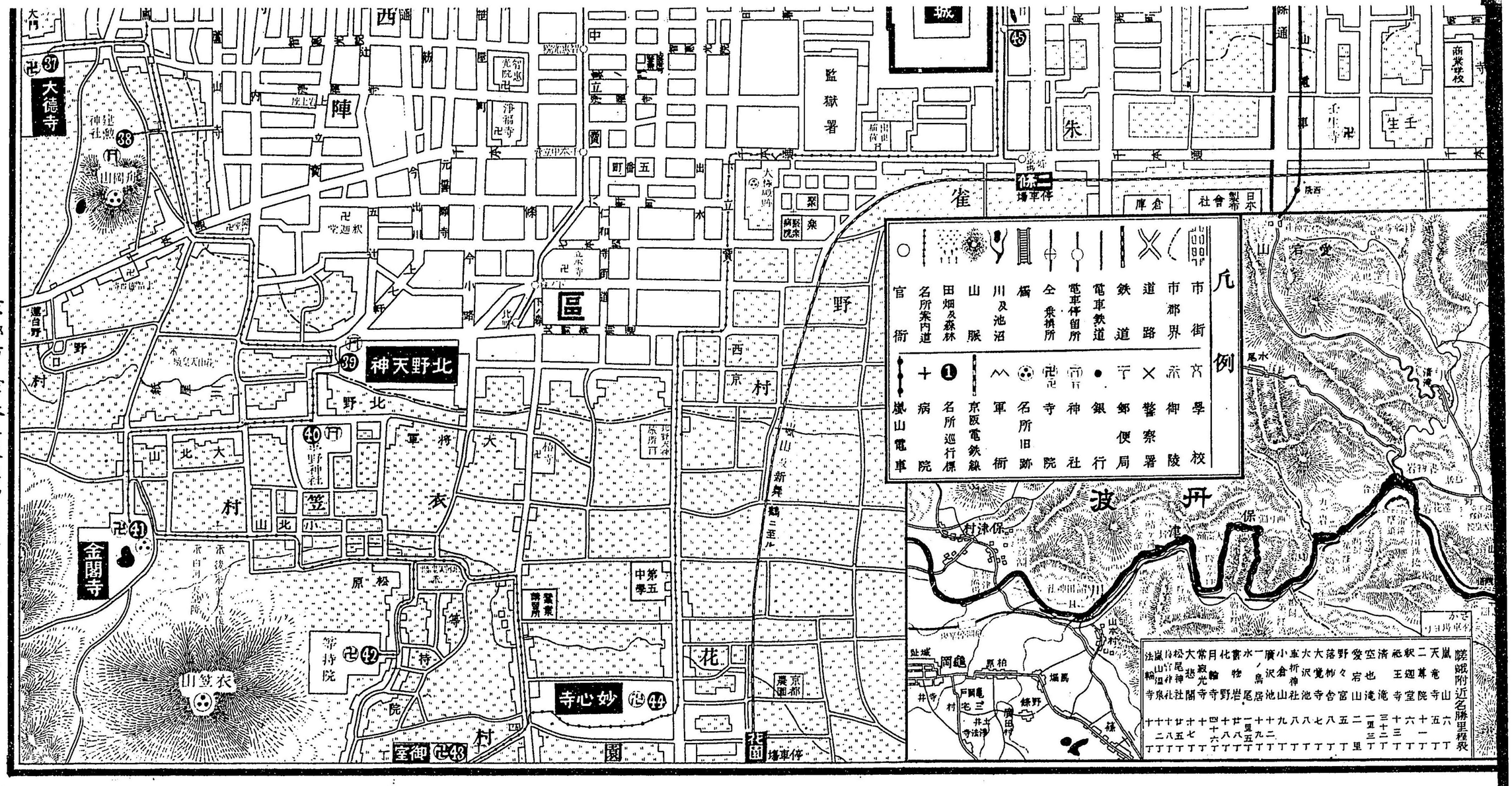
凡例

- 市街
- 郡界
- 道路
- 鉄道
- 電車鉄道
- 電車停留所
- 橋
- 川及池沼
- 山脈
- 田畑及森林
- 名所案内道
- 官衙
- 文學校
- 御陵
- 警察署
- 郵便局
- 銀行
- 神社
- 寺院
- 名所旧跡
- 軍衙
- 京阪電鉄線
- 名所巡行標
- 病院
- 嵐山電車

嵯峨附近名勝里程表

法輪寺	嵐山温泉	十丁
松尾神社	梅宮神社	十二丁
愛宕神社	常寂光寺	十八丁
月輪寺	化野	十丁
釈迦堂	大覚寺	十丁
天龍寺	嵐山	六丁
竜門寺	亀山	五丁
天竜寺	嵐山	十丁
二尊院	常寂光寺	十丁
釈迦堂	清涼寺	十丁
祇園社	八坂神社	十丁
清水寺	音羽山	十丁
空也滝	一里三丁	
愛宕山	二里	
野々宮	五丁	
落柿舎	八丁	
大覚寺	七丁	
大沢池	八丁	
大沢池	八丁	
小倉山	九丁	
直指庵	十丁	
広沢池	十二丁	
一ノ鳥居	一里五丁	
水尾	十丁	
清滝	十丁	

名勝地圖



京都市 宮本呉服店印刷部 川本南洋堂印行

本店 京都松原通不明門
電話 貳百貳拾壹番
貳千六百。貳番
振替口座大坂壹貳八壹番

儀

宮本儀助商店

支店 東京日本橋區通り油町十七
電話 浪花 七百五拾參番
振替口座 壹。貳。參番

025400-000-3

特26-905

京名勝

笠原　鴨涯／編

M44

ADC-2847

264
771

特
9